

## 事後評価シート

調査研究課題名	支援物資のロジスティクスに関する調査研究
担当者	研究調整官 松永康司、 研究官 加藤賢、 研究官 渡辺伸之介
① 当初目標と目標達成度	<p>本調査研究は、支援物資のロジスティクスについて、過去の災害における課題の多くが地方公共団体の体制構築等に起因することから、地方公共団体の担当者が、災害に備えた事前準備と発災後の対応の両面において検討材料となる手引き及び手引きの内容を具体化したツールを作成し提供することにより、支援物資のロジスティクスの円滑化に資することを目標とした。</p> <p>調査研究の成果として、地方公共団体の、支援物資のロジスティクスにおける課題を明らかにするとともに、この課題を解決し得る手引き及びツールを作成し、支援物資のロジスティクスの体制を構築するための手法を提示することができ、当初の目標は達成したものとする。</p>
② 調査研究内容の妥当性	<p>本調査研究では、支援物資のロジスティクスに関する過去の災害での課題や対応方策について、関係府省の検討状況や有識者等の提言等の整理を行ったところ、課題の多くが地方公共団体の体制構築等に起因するものであったことから、これらの課題について現状における地方公共団体の取り組み状況を把握し、得られた知見を基に対応方策を検討し、手引き及びツールで示した。</p> <p>本調査研究の成果は、災害時に中心的な役割を担う地方公共団体の担当者が、災害に備えた事前準備と発災後の対応を検討し、支援物資のロジスティクスの体制を整備し、地域防災計画を改訂し、マニュアルを策定する等にあたって有効な情報を提供し得るものである。</p>
③ 調査研究の仕組みの妥当性	<p>調査研究を進める過程でアドバイザー会議を実施し、有識者の皆様からご助言をいただいた。アドバイザーには、支援物資のロジスティクスや地方公共団体の現状等について幅広い知見を有する学識経験者及び物流経験者に就任いただき、様々な角度からご意見をいただいた。あわせて、地方公共団体における支援物資のロジスティクスの担当者や物資提供者である流通事業者の担当者にも手引き及びツールについてご意見をいただいた。</p>
④ 成果と活用	<p>研究成果を当研究所のホームページで広く公表すると共に、平成 25 年度の土木学会全国大会等で発表を行い周知することを予定している。本調査研究における手引き及びツールが、地方公共団体の支援物資の担当者等に活用されることを通じて、今後の支援物資のロジスティクスの円滑化に資することが期待される。</p>
⑤ その他	<p>調査研究内容を PRI Review 47 号、49 号に掲載するとともに、平成 24 年度の総合政策局情報政策課主催の交通・運輸関係調査機関等発表会や、当研究所が主催した平成 24 年度研究発表会等においても成果の一部について報告を行っている。また、平成 25 年度の土木学会全国大会において発表を行う予定である。</p>